

呉竹文庫

呉竹文庫は、北前船主熊田源太郎が大正時代に設立した私設図書館で、嗣子卓郎氏の篤志により平成2年以來旧美川町（現白山市）が運営の主体となり、図書・美術品・古文書の保管と公開をする施設です。

呉竹文庫の特長の一つ目は、明治から昭和初期にかけて熊田氏が収集した約1万4千冊の書籍です。初版本全集など貴重な図書を間近でご覧いただけます。

二つ目は、熊田氏が収集した美術品や古文書等です。掛軸では藤原定家の「明月記」の断簡、和装本では冷泉為相の源氏物語「夕顔の巻」、工芸品では春日散米折敷、古文書では前田利長書状などがあります。

三つ目は、昭和3年から4年にかけて別邸として造られた家屋群です。土蔵は^{きやいた}鞘板で覆われてなまこ壁が施され、重厚な出入口の書庫と立体感のある^{こてえ}鏝絵が施された総檜造りの洋風書斎となっています。また和室は簡素ながらも趣があり、茶室も備えています。

熊田源太郎（幼名源一郎）は、明治19年（1886）生まれ。17歳で熊田家分家（屋号＝熊源）の二代目当主を継いだ源太郎は、県下有数の大地主で、実業家でもありました。「私は紙魚になりたい」は読書好きで知識欲旺盛な源太郎の言葉です。

源太郎の功績を一言するならば、図書館を設立し小舞子夏季大学講座を開講したように社会教育に情熱を注いだことです。

惜しまれることに、昭和10年（1935）、湊村の村長として手取川大洪水の復興に尽力する中、48歳の若さで生涯を閉じました。

呉竹文庫は、北前船主の財力や社会的地位を示すだけでなく、熊田氏の人柄や教養・見識の高さ、視野の広さに触れることができる歴史的価値のある文化遺産です。